



平成27年度実践記録・自作学習材コンテスト

<実践記録の部>～優秀賞作品～

進んで追究・活動する歴史授業 ～単元を貫く学習課題と学習方法・支援の工夫について～

長野原町立中央小学校 教諭 轟 和也

1 ねらい

学習支援の工夫、学習方法の工夫、単元を貫く学習課題の設定という3点を取り入れて、授業改善を図ることで、児童が進んで追究・活動する歴史授業を構成する。

2 具体的な取組

(1) 学習支援の工夫

① 意欲をもたせるために

- ・人物標語を活用した導入
- ・イメージがもてる資料提示
- ・人物に視点をあてた学習
- ・教室環境の工夫

② 理解させるために

- ・パワーポイントを中心にICT機器を活用した視覚的理解
- ・導入で前時の復習、確認
- ・まとめノート

(2) 学習方法の工夫

- ① 資料をもとに考える ② 話し合い活動 ③ ジグソー学習

(3) 単元を貫く学習課題の設定

- ① 導入（興味・関心をもたせる資料提示、予想の立て方）
② 追究過程（予想したことを資料をもとに追究）
③ まとめ（学習課題に対して自分の言葉でのまとめ、発展的な課題）



ICT機器の活用の様子

3 成果と課題

意欲的な姿が見られ、知識・理解の向上を図ることができた。また、資料をもとに考える活動を毎時間行うことで、資料の見方や考える視点などが身に付いた。今後は、発問と活動内容の関連性や児童の発言から学習課題を導くこと、効果的な話し合い活動にすることを目指したい。

あたたかく規律ある学級づくりを目指して ～学級力会議・構成的グループエンカウターの実践を通して～

長野原町立北軽井沢小学校 教諭 池田 敬介

1 ねらい

本テーマに迫るために、自己理解・他者理解を深め、相手を思いやる気持ちを育てること、共感的・支持的風土の中で、安心して学習できる環境を整えること、最高学年として、下学年の手本となるよう自分たちで考え実行する力を育てること、という3つのねらいを設定した。

2 具体的な取組

(1) 学級力会議

学級力アンケートの結果をレーダーチャートで可視化し、話し合い活動を行った。そこで決まった今月のがんばるポイントを全体で共有し、具体的な行動へとつなげた。

(2) 構成的グループエンカウター

今月のがんばるポイントに沿った様々なエクササイズを通して、自己理解・他者理解を深め、所属感・自己肯定感などが感じられるように指導した。

(3) 学校行事への最高学年としての取組

学校行事や縦割り活動において、中心となって計画・準備・活動させることで、自己肯定感や満足感を感じさせ、学級の団結を目指した。



学級力会議の様子

3 成果と課題

学級での活動に前向きになり、誰とでも仲良く協力して活動できた。また、児童に安心感が生まれ、授業中の挙手や発言が増え、主体的な姿勢が見られた。今後は、より児童に任せる時間を増やすとともに、個人で解決する力をさらに育てるようにしたい。

興味・関心を高め、持続させる教材教具の提示と授業改善のための実践記録 ～太陽系モデルを利用した、時間的・空間的な概念を育てる授業展開について～

東吾妻町立東吾妻中学校 教諭 武井 雅俊

1 ねらい

実物観察から学ぶことが難しい太陽系の時間的・空間的なイメージを実感・体験させるための教材教具の工夫と授業改善を図る。

2 具体的な取組

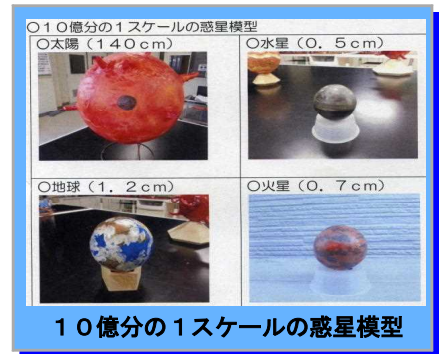
(1)教材教具の提示、活用

①天体シミュレーションソフト

- ・時間を早送りしたり、戻らせたりしながら繰り返し、惑星や衛星、星座の動きを学ぶ。
- ・視点を変え、地球以外の天体から見た様子を視聴する。

②天体モデル

- ・太陽、惑星の1/10億、1/100億サイズの模型を校庭に配置し、太陽系の広がりを実感する。
- ・月の見かけの変化を月モデルを用いて理解する。
- ・星座の季節による見え方を星座モデルを用いて理解する。



(2)学習方法の工夫

- ①モデルを配置したり、動かしたりしながら考えを伝え合えるようにする。
- ②実際の観察とシミュレーションソフトの映像やモデルを用いた学習とを関連させ、より意欲的に詳しく観察できるようにする。

3 成果と課題

シミュレーションやモデルを活用することで、宇宙の時間的・空間的な広がりについての理解を深めることができた。特に、モデルを活用した学習においては、具体的に指し示し（動かし）ながら活動できるため、意欲面、理解面において効果的であった。今後も、生徒の思考を助ける教材を準備し、生徒が主体的に学び合える学習を展開していきたい。

<自作学習材の部>～優秀賞作品～

完全版「ローマ字学習用アルファベットカルタ」

東吾妻町立原町小学校 教諭 丸橋 みはる

1 ねらいと効果

アルファベットやローマ字をなかなか記憶できない児童が、くり返しカルタ遊びをすることで、カ行は「K」、サ行は「S」ということなどを楽しみながら覚えることができる。また、電子データ化しカラープリンターで同じカルタを簡単に複製することで、多くの子どもに親しんでもらうことができる。平成30年度の小学校での英語学習の先行実施に向けても活用が期待できる。

2 活用事例

(1)通級児童（言葉の遅れ）のローマ字習得に

授業での学習内容が早く終わったときなどにローマ字カルタで遊んだ。繰り返し行うことで、読み札を暗記し、パソコンなどでのローマ字入力が抵抗なくできるようになった。

(2)3年生のローマ字学習に

カルタをグループで1組使えるように何組か用意し、ローマ字学習後、楽しみながら定着を図るのに用いた。



3 成果と課題

イラストも含め手作りのため、大変親しみやすく、読み札も覚えやすいよう文言を工夫することで児童は楽しみながら学習することができた。発達の段階に応じて遊び方を工夫できたこともよかった。今後は、絵を見やすくすることやWebページにアップロードし、誰でも活用できるようにしたい。

募集

平成28年度実践記録・自作学習材コンテスト

- ・受付期間：平成29年1月4日（金）～1月13日（金）
- ・詳しくは、各園・学校へ配布した募集要項、ポスターをご覧ください。